

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2018（平成30）年 第44週（10月29日～11月4日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 増加続く」

第44週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,842例であり、前週比4.0%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、手足口病、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ4.1、1.7、0.8、0.6、0.5である。

感染性胃腸炎は前週比22%増の828例で、南河内6.8、大阪市西部6.6、中河内5.3、北河内4.6であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は14%減の349例で、堺市3.1、南河内2.6、大阪市南部2.2、泉州2.0である。

RSウイルス感染症は38%減の155例で、中河内1.2、北河内1.1、大阪市西部1.0であった。

手足口病は30%減の118例で、泉州・大阪市北部1.0、大阪市西部0.9である。

咽頭結膜熱は1%増の108例で、北河内1.1、大阪市西部0.8、中河内0.7であった。

また、インフルエンザは18%増の106例、定点あたり報告数0.3で、三島1.0、大阪市北部0.8である。

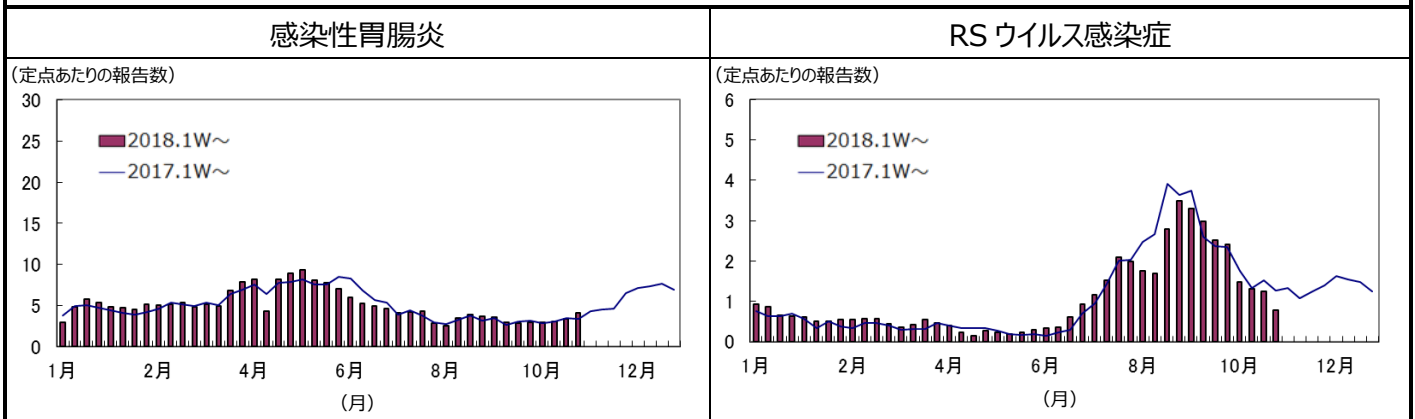


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2018（平成30）年 第44週 10月29日-11月4日）

第44週の順位	第43週の順位	感染症	2018年 第44週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2017年 第44週の 定点あたり 報告数	2018年 第44週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	4.1	22%増	3.3	1歳_14%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.7	14%減	1.8	5歳_17%
3	3	RSウイルス感染症	0.8	38%減	1.3	1歳未満_40%
4	5	手足口病	0.6	30%減	0.7	2歳_30%
5	6	咽頭結膜熱	0.5	1%増	0.3	1歳_31%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.3	18%増	0.3	20歳以上_20%

第 44 週のコメント

～A 型肝炎～ ワクチン接種で予防可能な感染症です。

全数把握感染症

A 型肝炎

A 型肝炎は、A 型肝炎ウイルス感染による疾患である。大規模な集団発生はみられないが、海外渡航者による輸入例、汚染食材や男性の同性間性的接触を介した感染事例などが報告されている。潜伏期は2～6週間であり、発熱、倦怠感などに続き、肝機能障害、食思不振、嘔吐、黄疸、肝腫大、灰白色便を認める。1～2カ月の経過の後に自然回復するが、まれに劇症化することがある。ワクチン接種が有効とされ、接種後、抗体獲得率は、95%以上である。感染防御効果は数年以上続くと言われている。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話：A型肝炎とは\(国立感染症研究所\)](#)

(累積報告数)

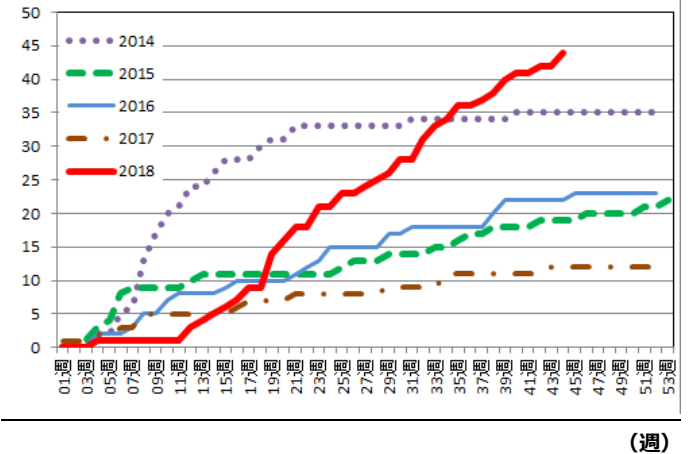


表 2. 大阪府全数報告数 (2018(平成 30)年 第 44 週 10 月 29 日 - 11 月 4 日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

疾患名	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1							1	194
4 類感染症	A型肝炎	2	1						1	44
	日本紅斑熱	1	1							8
	レジオネラ症 (肺炎型)	2						2		119
5 類感染症 (麻しん、風しんは除く)	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1							27
	後天性免疫不全症候群	2			1				1	129
	侵襲性肺炎球菌感染症	3	2						1	221
	水痘 (入院例)	1				1				26
	梅毒	9	1			1			7	996
	百日咳	23	1	1	1	2	3		15	797
結核 (2018 年 9 月分)	結核 新登録患者数 : 140 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 52 名) (府内累積報告数 1,369 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 523 名)									
麻しん、風しん	麻しん 1 名 (豊能 1 名、府内累積報告数 3 名) 風しん 10 名 (豊能 1 名、三島 2 名、中河内 3 名、堺市 1 名、泉州 1 名、大阪市 2 名、府内累積報告数 69 名)									

(2018 年 11 月 6 日 集計分)